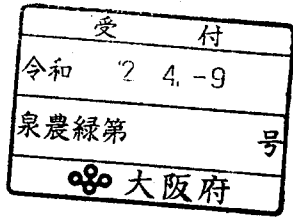


(第1面)

産業廃棄物処理計画書

年 月 日

大阪府知事 殿



提出者

住 所 大阪府泉佐野市松原3丁目4番38号

氏 名 (株)日本ネットワークサポート 佐野工場

工場長 中後 浩一郎

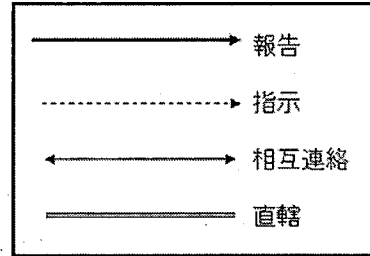
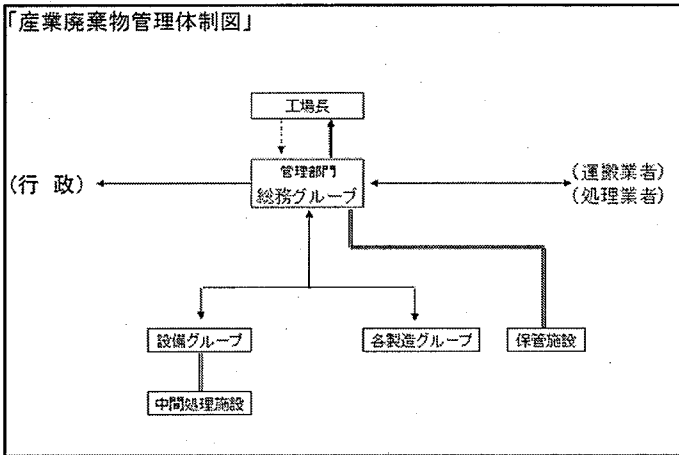
電話番号 072-464-5881

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	(株)日本ネットワークサポート 佐野工場
事業場の所在地	大阪府泉佐野市松原3丁目4番38号
計画期間	2020年4月1日～2021年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	21：窯業・土石製品製造業
②事業の規模	製造製品出荷額：145,376万円 (2019年度 実績)
③従業員数	78名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙①、別紙②のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（2019年度）実績】別紙③のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・産業廃棄物の大半を占める汚泥の発生箇所、発生状況について現状分析を行い、減量化の可能性を検討し、産業廃棄物の減量化に努めている。		
②計画	【目標】別紙④のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・発生抑制を考慮した製造方法の検討。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・無機性汚泥(A1)・ガラスくず(A2・A3)・汚泥(A4)・陶磁器くず(A5) ・廃プラスチック(C)をそれぞれ分別している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・特になし。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（2019年度）実績】別紙③のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・産業廃棄物を自ら再生利用していない。		
②計画	【目標】別紙④のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・再生利用の可能性を検討する。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（2019年度）実績】別紙③のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組) ・排水処理施設の定期点検を行い、汚泥の脱水効率が下がらないように維持している。			
②計画	【目標】別紙④のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組) ・上記事項を継続実施していく。			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（2019年度）実績】別紙③のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・実施していない。		
②計画	【目標】別紙④のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・実施予定なし。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（2019年度）実績】別紙③のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
		t	t
	(これまでに実施した取組) ・産業廃棄物情報ネット等を参考に、委託基準を遵守している産業廃棄物処理業者を選定している。		

②計画	【目標】 別紙④のとおり	
	産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t
	再生利用業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引続き、産業廃棄物情報ネット等を参考にし、優良認定処理業者を選定する。 		
※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 当該事業場において現に行っている事業に関する事項の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

前 年 度 【 2019 年 度 】 実 績 報 告 書 別 紙 ③

提出先	提出先名	提出先住所	提出先電話番号	提出先FAX	提出先電子メールアドレス
提出先住所	提出先名	提出先住所	提出先電話番号	提出先FAX	提出先電子メールアドレス
提出先住所	提出先名	提出先住所	提出先電話番号	提出先FAX	提出先電子メールアドレス

コード	産廃物の種類	計 画 図 の 実 施 状 況										②+③	③+④		
		①排出量	②自ら回収した量	③自ら中間処理した量	④自ら中間処理した量	⑤自ら中間処理した量	⑥自ら中間処理した量	⑦自ら中間処理した量	⑧自ら中間処理した量	⑨自ら中間処理した量	⑩自ら中間処理した量				
1	無機性汚泥 A1	4,562	4,562	4,106	456	456	456	456	0	0	0	0	0	0	0
2	ガラスくず等 A2	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	ガラスくず等 A3	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	汚泥 A4	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	陶磁器くず A5	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	廃プラスチック類 C	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7															
8															
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
16															
17															
18															
19															
20															
	合計	4,603	0	4,106	456	456	456	456	0	0	0	0	0	0	0

(注)1)トナリ系物は原則として四捨五入、ただし、数字が有効であれば小数点以下3桁まで記載は可。

今年度【2020年度】目標別紙④

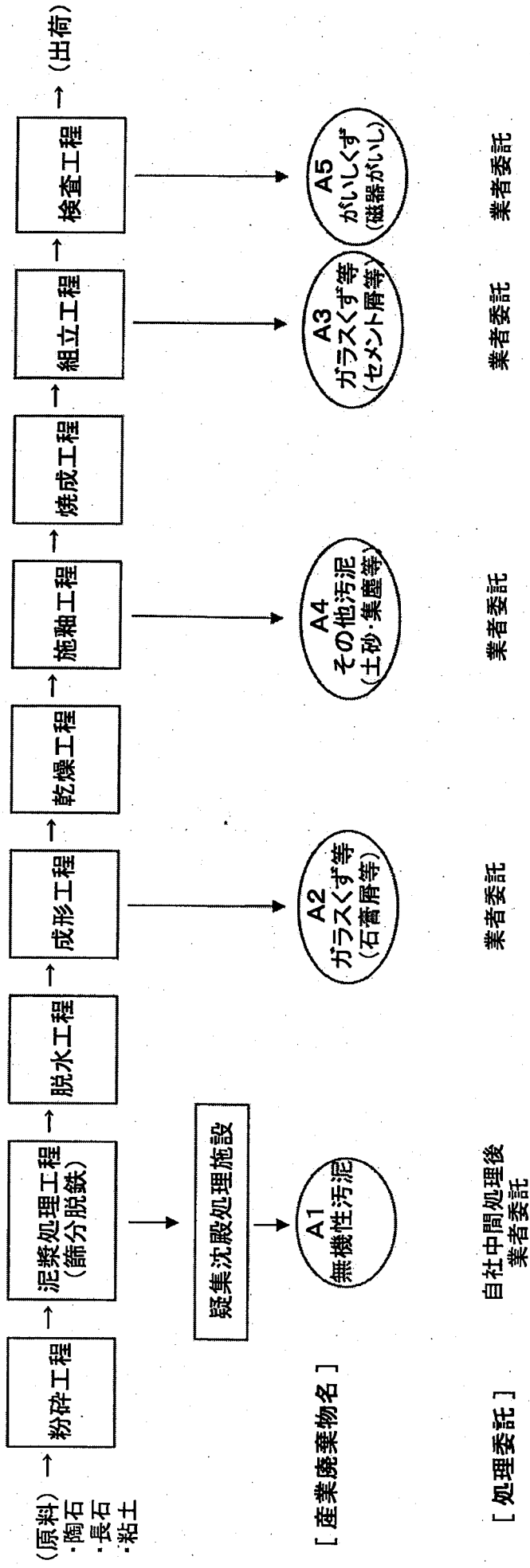
種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別
生産業務を担出する事業	生産業務を担出する事業	生産業務を担出する事業	生産業務を担出する事業	生産業務を担出する事業	生産業務を担出する事業	生産業務を担出する事業	生産業務を担出する事業	生産業務を担出する事業	生産業務を担出する事業	生産業務を担出する事業
大塚建設	大塚建設	大塚建設	大塚建設	大塚建設	大塚建設	大塚建設	大塚建設	大塚建設	大塚建設	大塚建設

事業年度の種別	計										⑪+⑫	
	①排出量	②自ら直接発生利用した量	③自ら直接発生利用した量	④自ら直接発生利用した量	⑤自ら直接発生利用した量	⑥自ら直接発生利用した量	⑦自ら直接発生利用した量	⑧自ら直接発生利用した量	⑨自ら直接発生利用した量	⑩自ら直接発生利用した量		
1 220 無機性汚泥 A1	4,425			4,425	443	3,982			443			0
2 1300 ガラスくず等 A2	37									37		0
3 1300 ガラスくず等 A3	16									16		0
4 200 汚泥 A4	36									36		0
5 1320 陶磁器くず A5	31									31		0
6 800 廃プラスチック類 C	1									1		0
7												0
8												0
9												0
10												0
11												0
12												0
13												0
14												0
15												0
16												0
17												0
18												0
19												0
20												0
合計	4,546	0	0	4,425	443	3,982	0	0	443	0	31	90

(注1)トン単位は原則として四捨五入。ただし、数字が有効であれば小数点以下3桁まで記載可。

磁器碍子製造工程

別紙 ①



[産業廃棄物名]

[処理委託]

自社中間処理後
業者委託

業者委託

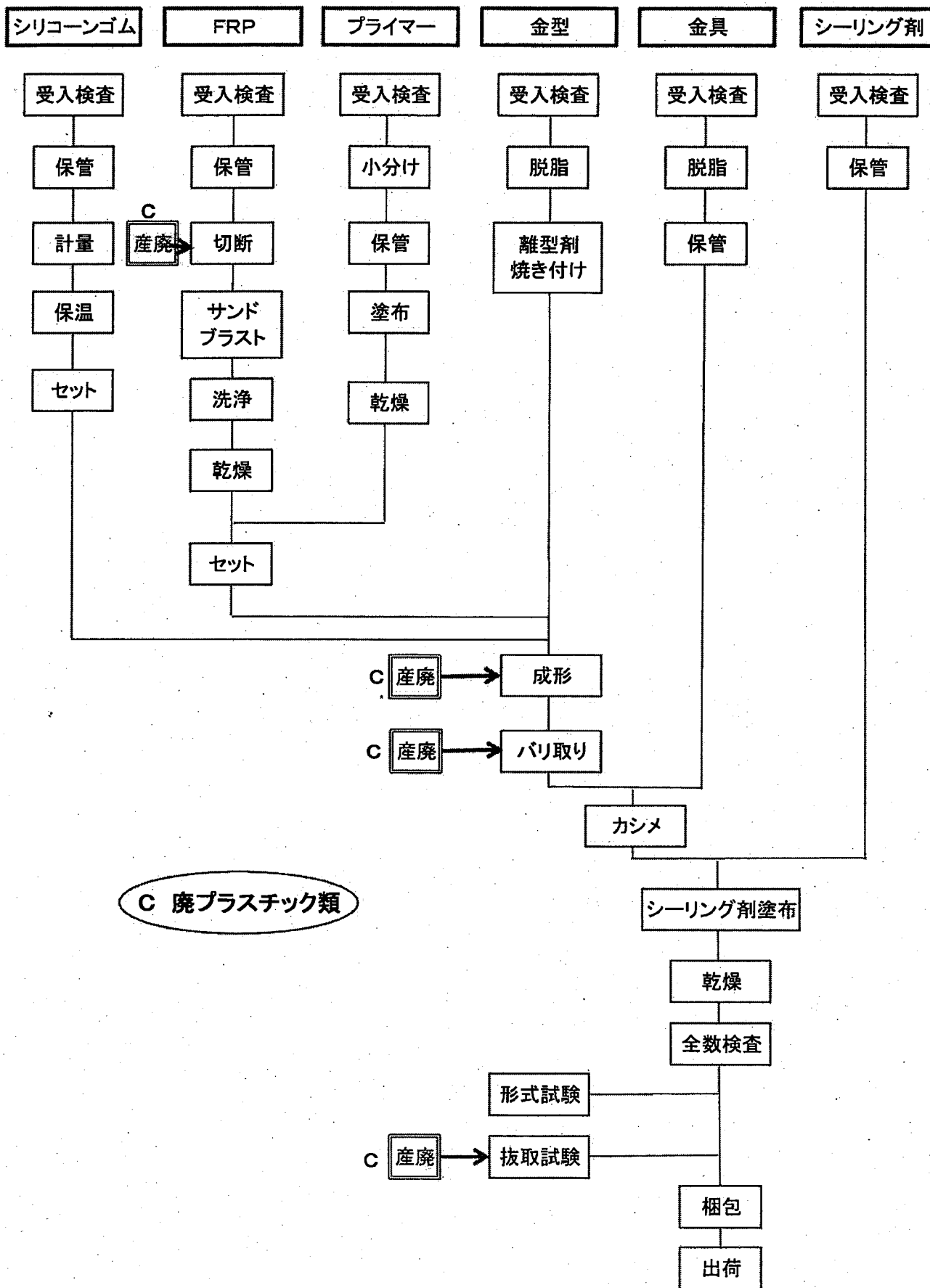
業者委託

業者委託

業者委託

ポリマー碍子製造工程

別紙 ②



C 廃プラスチック類